



# ドアハンドルを通して ものづくりの伝承と発展を目指す

株式会社ユニオンは、1958(昭和33)年にドアハンドル専門メーカーとして大阪市で創業。住宅やホテル、商業施設、病院などさまざまな建物に採用され、ドアハンドルの国内シェアはトップを誇ります。ドアハンドル以外にも、建築部材の金物を、建物の用途やシーンに合わせて数多くのラインナップを用意。大阪をはじめ東京、名古屋にも営業拠点を置き、1980年代からは海外市場にも進出して挑戦を続けています。

立野純三社長に製品開発にける思いと、今後の取り組みについてうかがいました。

## ユニオン=ドアハンドルを確立

当社はドアハンドル専門のメーカーとしてスタートし、現在は国内外に向けて建築金物の開発と製造、販売をしています。大きな転機となったのが1964年の東京オリンピックと1970年の日本万国博覧会でした。オリンピックに向けた建設ラッシュ時には、競技施設や新幹線の駅舎のドアハンドルに、万博では全てのパビリオンに当社のドアハンドルを採用いただきました。この経験からブランド力に自信と信頼を得て事業が拡大し、ユニオン=ドアハンドルというイメージを持ついただけるようになりました。

## 時代のニーズに即した製品づくり

製品開発は社内のデザイン担当約10名を中心に、ファッションなどの流行を参考にしながら、デザインから材質、色、仕上げなどを決めていきます。最近はやや新素材が出てこないため、色や仕上げをブラッシュアップして新たな製品をつくることもあります。

ドアハンドルは手に触れるものなので、触ったときに違和感がないことと、怪我の心配のない安全なものであることにも気を付けています。

最近では、価格の高騰もあり真鍮を扱うことが少なくなってきました。今は仕上がり色だけでOKと判断されがちですが、真鍮などの経年変化する素材の良さもあると思います。皆さんにはぜひ本物を長く使っていただきたいです。



真鍮鑄物のカスタムハンドルの事例。設計士の想いを形にし、経年美化を愉しむ

また、近年は海外向けに、日本の伝統工芸である南部鉄や漆、有田焼をハンドルに取り入れた製品も展開しています。当社の製品は以前から海外で仕上がりなどを評価していただいていますので、今後は今以上に認めて使ってもらえるように注力していきたいです。

## 建築家と製品を開発する

採用いただく建物の設計者と、その建物に合ったハンドルと一緒に開発する機会も多く、それをカタログに載せて既製品化するケースもあります。

建築家の皆様には、できるだけ難しいデザインや仕上げをぜひご注文いただきたいと思っています。もちろんカタログから選んでいただくことが非常にありがたいのですが、一方で、製造してくれている工場の職人の技術を守

り、伝承していくことも重要だと考えています。ぜひ一緒にものづくりに挑戦していただけると嬉しいです。そのためにも、建築家の皆さんにきちんとご提案できる、コンサルができる営業マンを育てていきたいです。

## 大阪万博で未来のハンドルを展示

私が社長として大事にしているものはファミリーです。やはり家族の支援がなくては働けませんから、家族にユニオンがどんな会社か知ってもらうことを大切にしています。社員全員で力を合わせて会社を継続していきたいと思えます。

今年のおおさか・くわんせい万博では当社が開発した非接触のドアハンドルシステムと、発電する引き戸を展示します。来場された際はぜひご覧ください。

## UNION 株式会社ユニオン

<https://www.artunion.co.jp>

ドアハンドルやレバーハンドル、消火器ケースなど、建設環境金属製品の製造・販売を行う。

本社・大阪支店 〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 TEL:06-6532-3731  
東京支店 〒135-0021 東京都江東区白河2-9-5 TEL:03-3630-2811  
名古屋営業所 〒454-0805 名古屋市中川区舟戸町3-20 TEL:052-363-5221

■東京支店1F「東京ショールーム」へぜひお立ち寄りください。



東京ショールーム